

各都市の食料消費支出の要因分析(その2)

鈴峯女短大 森 英子

目的 各都市の家計食料支出額を所得・物価・家計主体の態度要因の3要因に、横断・時系列にわたって分析した結果を今春の中国・回國大会で報告したが、今回は食料22品目支出別に同じく3要因に分析し、そのなみで特に主体要因について、各品目ごとの各都市の評価をおこなうとともに、22品目の得点を集計し各都市の家計主体の食料支出に対する態度を総合的に評価することを試みた。

方法 資料は昭和56年度家計調査年報・都道府県庁所在都市(全世帯)である。食料支出22品目別の総消費支出額との直線回帰式 $Y = \alpha + \beta X$ を決定し、これに各都市の総消費支出額を代入し算定支出額を算出する。一方で小売物価統計調査・家計調査年報の品目別支出額及び購入数量から価格指数を算出し、実際支出額を実質支出額に修正する。この実質支出額と総消費支出額からの算定支出額との差を家計主体要因とする。物価要因は実際支出額と実質支出額の差であり、所得(消費支出)要因は算定支出額と47都市平均実際支出額との差である。

結果 22品目別の各都市の家計主体要因の得点を主食・副食・嗜好食品・外食にまとめ、次いで総集計したが、主食では1位神戸、2位大阪、3位金沢、4位名古屋、5位京都、副食では1位青森、2位秋田、3位新潟、4位千葉、5位神戸であり、嗜好食品では1位秋田、2位新潟、3位千葉、4位青森、5位仙台であり、外食では1位高知、2位浦和、3位岐阜、4位前橋、5位高松であり、総合では1位青森、2位秋田、3位神戸、4位新潟、5位大阪で、下位からは9位高松(田)徳島(田)佐賀(田)山形(田)奈良の順であった。